

Synchronize with the future workshop

「未来の生活者とシーンの兆し」

今はまだ存在しない未来の価値を捉えた新しいサービスや活動を考えるための拠り所となる、「確からしさ」を得るための未来のシナリオ。そして未来のシナリオを現実近づけるために自分たちが「今」すべきことはなんなのか？その兆しを導き出すためのワークショップです。

設計：小島 和人 ハモニズム（ロフトワーク / プロデューサー、美術作家）

【ワークによって得られる気づき】

- 今はまだ存在しない未来の価値の兆し
- 未来の生活者のマインド予測
- 行う活動が、未来の社会にどのような影響を与えるか？

【ワークのポイント】

- それぞれに多様な視点を持ったメンバー3〜5人程度で進める
- 個人の思いや思想を強く反映する
- 仮説であって正解も不正解もない。発言は気軽に

【自己紹介】

(例)

ロフトワーク

クリエイティブ
ディレクター

バンド
やっています

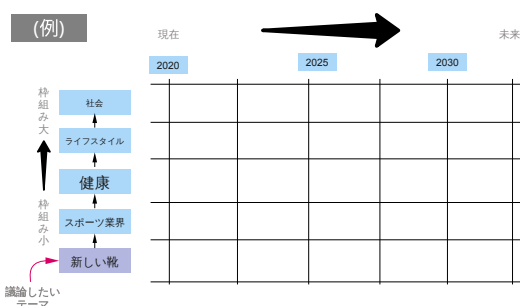
大学時代は
法律を
学んでました

リサーチ
プロジェクトが
得意です

【STEP】

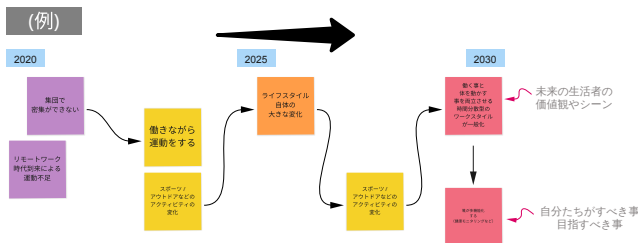
1 テーマと予測すべき年代の設定

議論したいテーマとその上位レイヤーのマッピングと、議論する年代を設定する



3 今の社会から未来の社会を予測する

マッピングした既出の未来予測を眺めた上で、現在から未来に向けて起こり得る社会や特定の業界の変化をディスカッションで予測し、「未来で起こりえる生活者の価値観の変化」や「シーン」をマッピングする。その上で自分たちがすべき事を仮説する



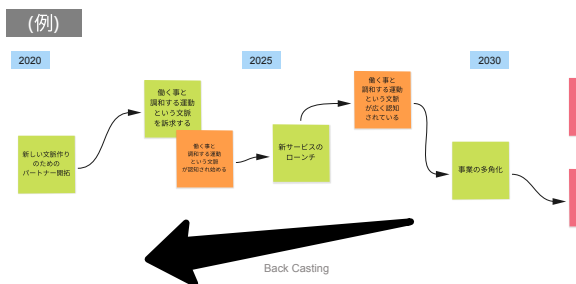
2 既出の未来予測の整理

研究所やメディアによる既出の未来予測から、テーマと関連がありそうなトピックを「未来予測」の欄にマッピングする（予測 + 予測年）直接的な影響はないが、テーマの未来に影響を与えそうな要素を見つけることで、大きな枠組みの流れを読む。

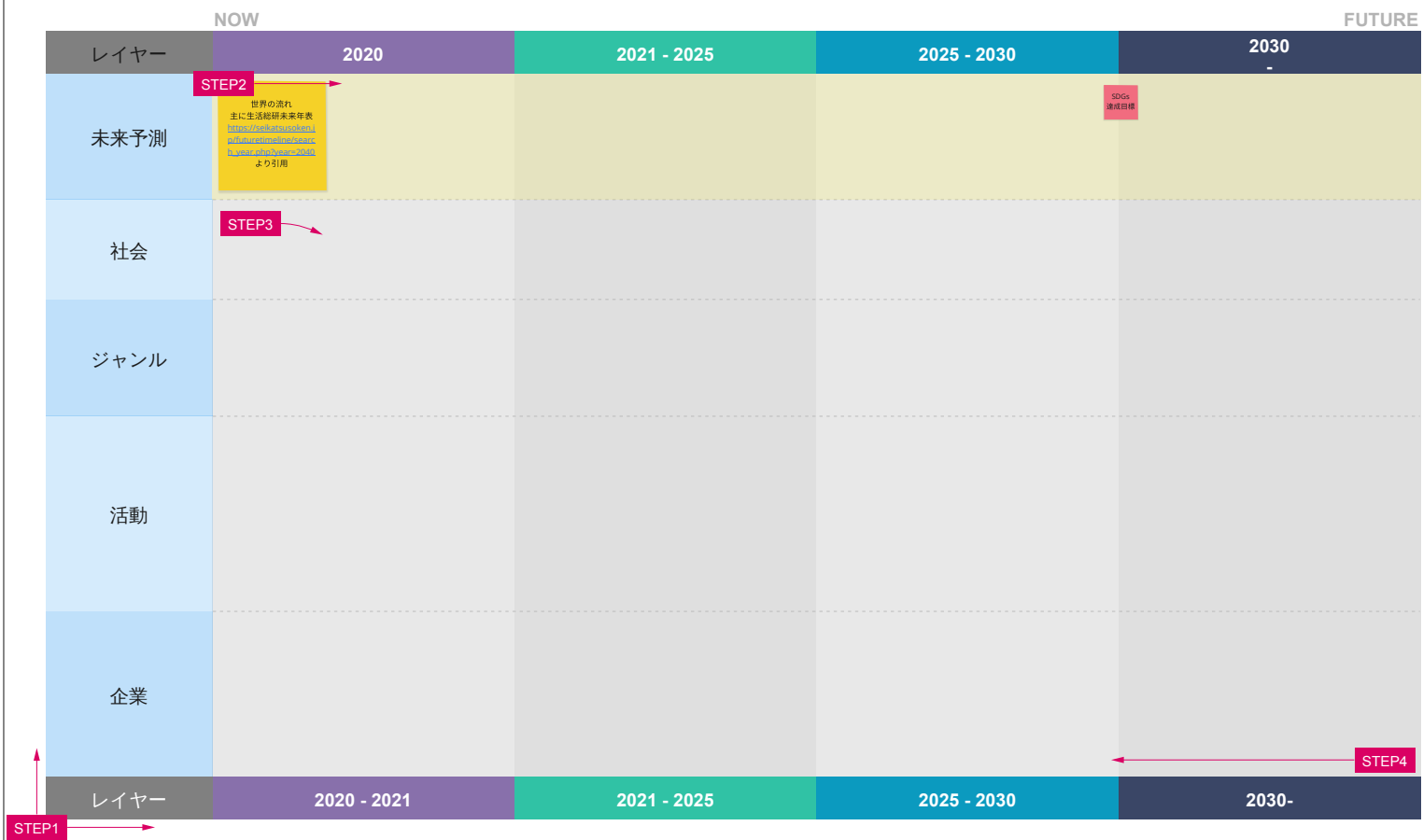


4 未来の生活者の価値観やシーンから逆算してアクションを考える

STEP3でマッピングした未来の生活者の価値観やシーン、自分たちがすべき事から逆算し、現在から想定する未来までの間のマイルストーンとして、「どうなっているべきか」「どのようなアクションをすべきか」をマッピングする



【FUTURE ROADMAP】



【FUTURE ROADMAP】

